

協議会会員企業・団体名

- Apple Japan, Inc.
 - 株式会社インターネットイニシアティブ
 - NTTグループ
 - KDDI株式会社
 - ソフトバンク株式会社
 - 日本電気株式会社
 - 株式会社日立製作所
 - 富士通株式会社
 - 楽天モバイル株式会社
-
- (一社) 安心ネットづくり促進協議会
 - (一社) インターネットコンテンツ審査監視機構
 - (特非) 情報セキュリティ研究所
 - (一社) 情報通信エンジニアリング協会
 - (一社) 情報通信設備協会
 - (一社) 情報通信ネットワーク産業協会
 - (一社) セーフアーインターネット協会
 - (一社) 全国携帯電話販売代理店協会
 - (一社) テレコムサービス協会
 - (一社) 電気通信事業者協会
 - (一社) 日本インターネットプロバイダー協会
 - (一社) 日本ケーブルテレビ連盟
 - (一財) 日本データ通信協会
 - (一財) マルチメディア振興センター
 - (一社) モバイル・コンテンツ・フォーラム

2026
年度

「情報通信の安心安全な
利用のための標語」

募集

募集
期間

2025年12月1日(月)～2026年2月28日(土)



詳細は下記アドレスもしくは二次元コードからご確認ください

<https://www.fmmc.or.jp/hyogo/>

問い合わせ先

〒105-0001 東京都港区虎ノ門二丁目4番1号 虎ノ門ピアザビル4階
一般財団法人マルチメディア振興センター内 情報通信における安心安全推進協議会事務局
TEL:03-6704-5553

e-ネットキャラバン

■入賞標語は「e-ネットキャラバン講座」内でご紹介します

e-ネットキャラバンは「安心・安全なICT(インターネット)利活用」に必要な気づきを広めるための啓発講座です。小学3年生から高校3年生ならびにその保護者・教職員を対象に全国で年間約2,500回開催されています。

【お問い合わせ】一般財団法人マルチメディア振興センター e-ネットキャラバン事務局
TEL:03-6704-5553 Mail:e-netcaravan@fmmc.or.jp

学校の 取り組み紹介

情報通信の安心安全な利用のための
標語



2025年度の
学校部門受賞校で、
当活動に賛同
いただいた学校の
取り組みを紹介します。



「情報通信における安心安全推進協議会」では、総務省、文部科学省、警察庁、法務省後援のもと、各地域の総合通信局・総合通信事務所、教育委員会等の皆様と連携し、子どもたちの「情報モラル」や「ICTリテラシー」を高めるための取り組みとして、毎年「標語」の募集を行っています。

後援



総務省
Ministry of Internal Affairs and Communications



文部科学省



警察庁
National Police Agency



法務省
MINISTRY OF JUSTICE

五所川原市立五所川原第三中学校（青森県）

標語作成者：（総務大臣賞）三浦 翔流さん（東北総合通信局長賞）神山 明香莉さん

情報を 守って使う ネットの輪 *..... 総務大臣賞 *.....
その言葉 あなたはもらって うれしいの? *..... 東北総合通信局長賞 *.....

◎ 標語づくりで育む言葉の表現力

SNSなどに関するトラブルが増えている現状を受け、生徒一人ひとりが情報通信の使い方について日頃の利用実態を振り返りながら考える機会が必要だと感じていました。
その中で、本取り組みを知り、情報モラルの重要性を自分の言葉で表現する標語づくりが有効ではないかと考え応募することにしました。この取り組みは主に技術科の授業の中で実施しましたが、生徒にとって身近な問題であることから高い関心を持って取り組んでくれたと感じています。

◎ 日々の活動が実り、学校部門ダブル受賞を達成!

本校は「すべての生徒が安全・安心に学校生活を送り、確かな成長を実感できる学校づくり」をめざし教育活動に取り組み、生徒が情報通信の「便利さ」とそこに潜む「危険性」に目を向けられるよう日々指導しています。
今回は、その学びをもとに標語づくりに取り組み、結果として学校部門総務大臣賞、東北総合通信局長賞の2部門での受賞となりました。本取り組みを通じ子どもたちの意識が向上しより良い行動につながることを期待しています。

◎ 受賞をきっかけに学校全体の意識が向上

受賞作品を掲載したポスターを校内に掲示したところ、多くの生徒が熱心に目を通すなど情報モラルを考える良いきっかけになりました。また、作成した生徒も「これをきっかけに情報を正しく使う人が増えてほしい」と語っており、情報の扱いを「自分ゴト」として捉える意識が広がっていることを実感しています。
今後も本校のスローガン「自慢できる学校」と生徒会スローガン「Passion ～情熱～」のもと、生徒・教職員・地域社会がワンチームで取り組んでいきます。



北海道幕別清陵高等学校（北海道） 標語作成者：大和田 美優さん

その言葉 ネットじゃなくても 言えますか *..... 北海道総合通信局長賞 *.....

◎ 積み重ねた歴史との融合により学びの深化を

本校は開校7年目の新しい学校ですが、道立新設校として私立高校の校舎内に開校しその後校舎を引き継いだ「歴史ある校舎の新しい学校」であり、校訓「考」「拓」「愛」のもと、地域の中で探究的に学び、地域に愛される魅力ある学校になることをめざし活動しています。
その中で「言葉の力」「表現する力」「ルールや約束を守る心」の醸成などに積極的に取り組んでおり、生徒一人ひとりの成長に向け標語作成は有効な手段の一つであると考え応募しました。

◎ 言葉の学びから生徒の成長を実感

近年、学校における一人1台端末が普及し生徒たちに正しい使い方を指導する必要性が高まっている中、標語作成は生徒たちにICT利用や情報モラルを考えてもらう良いきっかけになっています。
「標語」を考える中で、「人に伝わる言葉」を意識し、「自分の体験」を振り返り、「友達の作品」を見ることで新たな気づきを得ることができ、本校の理念「幸せな大人になる力を身につける」実践に向け、本活動を通じ生徒が成長していることを実感しています。

◎ 地域全体で「地域を支える若者」の育成を

本校は地域の方々の思いや協力があり開校した学校で、「地域への人材輩出」や「地域に還元できる教育」を意識し、また、子どもたちの価値観や視野を広げ卒業できるよう教育しています。
今後も「標語」の取り組み等を活用し、生徒が考える機会を提供するとともに、一人ひとりの個性の発見と伸長に努め、学校だけでなく地域全体で「これからの地域を支える若者」を育てていきます。



横浜市立みなと総合高等学校（神奈川県） 標語作成者：米平 彩花さん

画面越し わからぬ事実と 見えぬ顔 *..... 関東総合通信局長賞 *.....

◎ 「伝える」から「考える」への転換により初受賞!

情報モラル教育として、教員の指導や警察による講義など年間を通じ様々取り組んでいますが、全国的に高校生がSNSトラブルに巻き込まれてしまう事例が多いことに課題を感じていました。
その中で今回の標語募集を知り、生徒が「考える」ためのツールとして授業に取り入れたことが応募のきっかけです。
初めての応募でしたが「関東総合通信局長賞」という素晴らしい賞をいただくことができ、教員も生徒も驚くとともに大きな励みとなりました。

◎ 「標語」を使い、生徒の自主的な学びを創出

本校では、「主体性を磨く」という教育目標のもと、生徒が主体的かつ対話的に深く学べる環境を提供しており、「高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）」の認定を受けていて、情報科以外でもICTを活用した授業を多く実施しています。
情報モラルに限らず著作権などを生徒に伝え理解してもらうことが非常に重要な中で、生徒自身が自ら学び考える「標語」はとても効果的だと考えています。
今回の受賞経験を生徒たちのモチベーション向上につなげつつ、今後も取り組んでいきたいと思っています。

◎ 受賞から得た経験を糧に新たなステージへ

今回の作品を作成した生徒は、「ひらめいたものを並べただけ」と謙遜していましたが、その作品が賞に選ばれたことは生徒にとって大きな自信になったと思います。
「主体的な学び」と「ホンモノの体験」による活きた教育を推進する学校として「自分で考え、自分で行動する力」「自律・共創・挑戦」の精神を大切に、引き続き「標語」などを活用しつつ「めざす学校像」実現に向けて取り組んでいきたいと思っています。



伊那市立長谷中学校（長野県） 標語作成者：原 琉維さん

考えて 面と向かって それ言える? *..... 信越総合通信局長賞 *.....

◎ 継続的な取り組みが生徒のやる気を醸成

本校ではICT教育の一環として標語作成に取り組んでおり、昨年も「信越総合通信局長賞」を受賞しています。
「標語」は生徒が主体的に取り組みやすく、情報モラルに関する学習内容を知識にとどめるだけでなく、自分の言葉で表現することで、学びを深める機会となっています。
生徒たちも、校内に掲示された昨年のポスターを目にすることで「自分もやってみたい」「自分の言葉で発信してみたい」と意欲的に取り組んでいます。

◎ 人のつながりを大切に活動で個性を伸ばす

本校は小規模校で地域や人とのつながりを大切にしています。
今回入賞した「標語」も人のつながりを意識した作品で、そうした土台があって生まれたものです。標語づくりの際は、複数の作品を作る生徒、一つの作品にじっくり取り組む生徒など、それぞれの個性や工夫が見られ、子ども同士活発に意見交換をしながら進めていました。
同じ言葉でも大人が発するのではなく、子どもの感性だからこそ響くことがあり、一人でも二人でも心に残るのであれば今後も続けていきたいと考えています。

◎ チャレンジで育む主体性、次世代につながる活動に

本校は、教育目標「心豊かに、たくましく、創造力あふれる生徒」のもと、「失敗を恐れず自ら考え取り組む」「常にチャレンジする」姿勢を大切にしています。最近では生徒会活動も生徒主体が当たり前になりつつあります。
これまでの受賞はこうした取り組みの成果であり、先輩の受賞が後輩の「次は自分たちが書く」という意識を生む刺激にもなりました。今後もこれまでの経験を活かし、情報モラルや表現力を深める場として標語活動をさらに充実させていきます。



富山県立氷見高等学校（富山県）

フェイクニュース 拡散じゃなく 確認を

＊ ＊ ＊ ＊ ＊ 北陸総合通信局長賞 ＊ ＊ ＊ ＊ ＊

● 情報の扱いを見直すきっかけに「標語」を活用

インターネットやSNSが普及し誰もが当たり前利用している中、生徒が誤った情報に惑わされたり、自分の投稿や心ない言葉で他人を傷つけるようなことをしてほしくないとの思いがあり、情報の扱いを見直す機会として冬休みの課題として取り組みました。本校では、毎年外部有識者による講習会も実施していますが、「標語」の取り組みを加えたことで相乗効果が生まれ生徒の意識向上につながったと感じています。

● 前向きな姿勢で取り組み、4度目の受賞を果たす！

標語づくりでは、「何を書けばいいの？」「情報モラルって何だっけ？」と戸惑う場面もありましたが、生徒は各々が工夫を凝らし真剣に考え前向きに取り組んでくれました。

その結果、4度目となる「北陸総合通信局長賞」を受賞することができ、生徒に受賞を伝えた際にはとても嬉しそう表情を見せてくれました。標語づくりは情報モラル教育に有効であり、受賞作品をポスターとして校内に掲示することで多くの生徒の目に触れ、情報モラルを意識するきっかけにもなっていると感じています。

● 未来に向けて、地域一丸となり取り組みを推進

本校には普通科のほか専門性の高い4つの専門学科もあるなど多様な生徒が在籍しています。また、地域とのつながりも強く、地域と協働した探究活動にも積極的に取り組んでいます。

今後は、地域と連携した啓発活動やAIと情報社会における倫理を深掘りするような探究活動なども実施したいと考えていますし、身近な事例を題材にした調査活動やグループ学習を行うなど情報モラルの理解を深めるとともに、生徒会と連携し生徒主体で情報モラルを考える活動も推進していきます。



小林聖心女子学院高等学校（兵庫県） 標語作成者：井口 つばささん

スマホより あなたの目を見て 話したい

＊ ＊ ＊ ＊ ＊ 近畿総合通信局長賞 ＊ ＊ ＊ ＊ ＊

● 初の試みで見た、情報モラル教育の新たな形

本校では授業での情報モラル教育のほか、年に一度外部講師による講習会を実施しています。

今回新たな取り組みを模索する中、標語募集の案内が目にとまり、1年生冬休みの情報の宿題として取り組みました。初めての試みでしたが、生徒は楽しみながら取り組み反応も良好でした。

教員としても、学校で活用しているコミュニケーションツール「manaba」を用いたことで、事務負担も少なくスムーズに対応することができました。

● 受賞作品の意味から学ぶ情報モラル

現代社会ではSNSでのトラブルが日常的に起きており本校も例外ではありません。本校は学校内でのスマートフォンの使用を禁止していますが、それだけでは問題解決は難しく、また、教科書に載っている内容を授業で話すだけでは生徒に真意が伝わらないと感じていました。

そのような中、本コンテストの受賞作品は一つひとつ意味深く教材として活用できるものであり、同年代の子どもが作った作品として生徒にも伝わりやすいと思いますので、今後の授業で生かしていきたいと考えています。

● 「心の教育」と「言葉の教育」で人を育てる

本校は、創立以来「Big You, small i（大切なあなた、謙虚なわたし）」の精神の育成に注力し、カトリックの学校として心の教育を重視し、その一環として情報モラル教育に標語活動を取り入れています。

情報モラルは、一見すると「このようなことをしてはいけません」「このようにしましょう」と知識としての植え付けになりがちですが、それを支える背景には人の心があります。「魂を育てる」「知性を磨く」「実行力を養う」という三つの方針を心に留め、今後とも情報モラル教育の取り組みを推進していきたいと思っています。



浜松市立北浜中学校（静岡県）

その情報 見れるよいつでも 誰からも

＊ ＊ ＊ ＊ ＊ 東海総合通信局長賞 ＊ ＊ ＊ ＊ ＊

● 3年計画の集大成として「標語」を活用

一昨年に情報教育の年間指導計画を策定し、昨年はその計画に基づき「朝活動時間を活用した情報モラル教育」や「情報通信機器の正しい使い方」など、継続的に指導してきました。

今年は活動として2年目を迎え、子どもたちの情報モラル意識の定着度や指導成果を具体的に測る観点から新たな取り組みを模索していたところ、「標語」の案内チラシをいただき、これまでの取り組みを整理し成果を形に残す好機と考え全校をあげて取り組みました。

● 情報モラル教育の進化に向けて、大人から意識変革を

本校がある地域は健全育成会の活動が盛んで、生徒にとって標語づくりは自然な取り組みの一つです。その中で、「東海総合通信局長賞」を受賞し、ケーブルテレビやラジオ局に取材いただくなど想像以上の反響があり、教員・生徒ともに驚きがありました。

今の時代、インターネットやSNSは子どもの方が使い慣れており、教員の指導方法や技能が追いつかず生徒・教員間にギャップも生まれています。今後は、このような取り組みを通じ、教員含め大人から意識を変えることで情報モラル教育も前進するものと考えています。

● 先駆者として、地域の活動をけん引

本校は、昨年度文部科学省のGIGAスクール指定校として1年間活動し、今年度は認定校として子どもたちの情報活用能力を伸ばす教育に力を入れています。また、教員間のコミュニケーションへの活用など地域のモデル校となるべく取り組んでいます。

標語応募についても、本校が先駆けとなり市内全域の学校に広げていきたいと考えており、実施には膨大なエネルギーが必要となりますが、本校の校訓である「有志竟成」のもと乗り越えていければと思います。



柳井学園高等学校（山口県） 標語作成者：清水 祐月さん

自分の価値 「イネ」で決める もんじゃない

＊ ＊ ＊ ＊ ＊ 中国総合通信局長賞 ＊ ＊ ＊ ＊ ＊

● 多様性の時代に「標語」がマッチ

本校は、普通科の中に「総合進学」「スポーツ科学」「教養キャリア」「ビューティー」のコースがあり、また、衛生看護科もあるなど各々めざす方向が異なる生徒が集まっている学校です。そのような環境下において小論文や作文に比べて、自分の経験や想いを短い言葉で表現できる「標語」は、生徒にとって取り組みやすい題材だと感じており、昨年に引き続き応募しました。

● 情報モラル教育の一部として「標語」を活用

本校の情報モラル教育は入学説明会の日から始まります。SNSでのトラブルは大小問わず起こるためその都度使い方を指導していますし、入学後は全校生徒向け講演会や日常活動でも教員が折に触れて指導しています。

今回、それらの取り組みが結実し「中国総合通信局長賞」を受賞することができ、学校として大変嬉しく思います。

今後も、協議会提供の「標語」を学ぶためのデジタルツール等を活用しつつ、生徒と一緒に楽しみながら応募を続けていきたいと考えています。

● 生徒に寄り添い、地域から信頼される学校をめざして

本校は「生徒に寄り添う」ことを大切に、集団生活に馴染めない生徒に対しても「どうすれば解決できるか」を、共に考え学校運営を行っています。

私立校だからこそできることがあり、独自色を打ち出しつつ保護者との連携を密に対応することで、近隣の方々から大きな信頼を得ていると感じています。

生徒の成長において学習も重要ですが、現代社会ではSNS等に起因する人間関係のトラブルも多く人との接し方や関わり方の学びも大切です。今後も「標語」を活用し学びを深め、子どもたちが明るく朗らかに過ごしていけるよう取り組んでいきます。



吉野川市立高越小学校（徳島県）

君しだい 善にも悪にも なるスマホ

四国総合通信局長賞

● 日々の取り組みを活かし「標語」を制作

本校は、情報モラルも学力向上の一環と捉え年に数回情報モラル教育に関わる活動を行っており、「標語」の取り組みもその一つとして継続的に実施しています。今回は6年生で取り組みましたが、多くの児童がスマートフォンを持ちLINE等利用していることもあり、身近な問題と捉え自分ごととして考え取り組んでくれました。

本校は、普段からTeamsを利用し連絡や宿題提出を行っているため、児童のICTスキルや語彙力が一定レベル以上にあり、今回の標語制作にも活かされたと感じています。

● 学校をあげた取り組みで、四国総合通信局長賞を受賞！

情報モラル教育では、総合的な学習や休暇前の生活指導・夏・冬休み前の「生活のしおり」を活用した注意喚起などを行っています。

また、養護教諭と連携した「ノーマメディアデー」の設定や、家庭で話し合いながらの“メディア断ち”、さらに「ネット社会の歩き方」を使い子どもたち自身がネットリスクを考える機会の提供など、学校全体で情報モラル意識の醸成に努めています。今回の「四国総合通信局長賞」受賞は、これらの取り組みが実を結んだ結果であり大変嬉しく思います。

● ツールを活用し、子どもたちの成長をサポート

本校は「スクールワイドPBS」に力を入れ、経営方針である「すべては、子どもの成長のために」を体現すべく、「叱る」のではなく子どもが自然に望ましい行動をとれるよう取り組んでいます。

また、「ハビサボ委員会」など児童主体の活動にも力を入れ、「学びと育ちのある学校」「信頼と絆で結ばれる学校」をめざし一丸となり取り組んでいます。

今後も「標語」などのツールを活用し、子どもたちの主体性を育むとともに、心を大切にした教育（人づくり）を推進していきます。



長崎県立島原高等学校（長崎県） 標語作成者：伊藤 有輝斗さん

その写真 こうかいする前 確認を

九州総合通信局長賞

● 「言葉の使い方」を「標語」で学ぶ

標語づくりに取り組んだ理由として「今の時代は知識や情報がすぐに手に入る一方で、人を動かす言葉のセンスがますます重要になる」という思いがあり、より効果的な言葉の使い方について教えていく必要性を強く感じていました。その矢先に「標語」の募集要領が届き、「短い言葉でメッセージを伝える活動を通じ言葉のセンスをより豊かに育むことができるのではないか」と考えたことが今回の応募のきっかけとなります。

● 次世代のリーダー育成に向けて「言葉の教育」を実践

取り組みを通じ生徒の言葉への関心や伝え方を工夫する意識、SNSへの問題意識が芽生えたと感じますし、探究活動やネットリテラシー教育によりリテラシーやコンピテンシーも年々向上していると思います。

本校は、教育スローガン「新たな時代の旗手となれ！青き楓たち」のもと、リーダーとしての資質を育む教育に取り組んでいることから、今後も標語活動などを通じ、言葉選びや伝え方の重要性を伝えていきます。

● 主体的な学びを通じて、時代を支える人材を育成

本校は「生徒に寄り添った学校」をめざし、生徒の主体的な学びや行動を重視しており、生徒に合わせた支援を行っているほか、毎年生徒会作成の「SNS徹底三則」を教室に掲示するなど生徒主導の啓発活動も実施しています。

また、週に一度「わくわくタイム」という自分で計画した活動に取り組む時間を設け、主体的行動をサポートしています。

今後も、新たな時代を支える人材育成に向け、「標語」などを活用しながら様々な取り組みを進めていきたいと考えています。



入賞作品 2025年度

学校部門

● 総務大臣賞

情報を 守って使う ネットの輪
五所川原市立五所川原第三中学校（青森県）

● 総務省各総合通信局長賞

北海道総合通信局

その言葉 ネットじゃなくても 言えますか
北海道幕別清陵高等学校（北海道）

東北総合通信局

その言葉 あなたはもらって うれしいの？
五所川原市立五所川原第三中学校（青森県）

関東総合通信局

画面越し わからぬ事実と 見えぬ顔
横浜市立みなと総合高等学校（神奈川県）

信越総合通信局

考えて 面と向かって それ言える？
伊那市立長谷中学校（長野県）

北陸総合通信局

フェイクニュース 拡散じゃなく 確認を
富山県立氷見高等学校（富山県）

東海総合通信局

その情報 見れるよいつでも 誰からも
浜松市立北浜中学校（静岡県）

近畿総合通信局

スマホより あなたの目を見て 話したい
小林聖心女子学院高等学校（兵庫県）

中国総合通信局

自分の価値 「イネ」で決める もんじゃない
柳井学園高等学校（山口県）

四国総合通信局

君しだい 善にも悪にも なるスマホ
吉野川市立高越小学校（徳島県）

九州総合通信局

その写真 こうかいする前 確認を
長崎県立島原高等学校（長崎県）

沖縄総合通信事務所

闇バイト 職に就けても 前科つく
那覇市立寄宮中学校（沖縄県）

個人部門

● 総務大臣賞

磨こうよ フェイクとファクト 見抜く力
諸田 真奈さん 秦野市立南小学校（神奈川県）

● 協議会長賞

児童部門

おやすみなさい パパもママも スマホもね
桑 菜月さん 泉南市立新家東小学校（大阪府）

生徒部門

下を見て スマホに気取られ 足取られ
荒谷 優海さん クラーク記念国際高等学校（兵庫県）

一般部門

信じるな ホワイト案件 白くない
木下 保菜美さん（栃木県）

● PTA関連賞

日本PTA賞

書きこみの ことばの温度 適温に
細川 千晴さん 学校法人暁学園暁小学校（三重県）

進化する スマホも心も グレードアップ
仲 穂香さん 神戸学院大学附属中学校（兵庫県）

全国高P連賞

フィルターは 見えない危険を 守る盾
賀須井 琴美さん 豊岡女子学園高等学校※応募時（埼玉県）

全附P連賞

増やしたい いいねの数より いい笑顔
楠原 菜瑚さん 文京学院大学女子高等学校（東京都）

● ネット社会の健全な発展部会特別賞

児童部門

「1回だけ…」 心の隙つく 闇バイト
野嶋 瑞希さん 渋谷教育学園渋谷高等学校（東京都）

一般部門

SNS 言葉の”槍”より 思い”やり”
植田 郁男さん（埼玉県）

● 企業優秀賞

NTTグループ賞

カクサンを するより前に カクニンを
森山 靖さん（東京都）

KDDI賞

スマホ持つ その手にそえる 思いやり
井原 彪さん 大府市立大府小学校（愛知県）

ソフトバンク賞

もってるか？ フェイクかファクトか 見抜く目を
加藤 里望さん 兵庫県立姫路東高等学校（兵庫県）

楽天モバイル賞

ネット社会 きちんと使えば グッド社会
鮎川 郁夫さん（東京都）